この5月5日・6日は中之島の大阪国際会議場へ行こう！

―これが大阪大学創立70周年記念事業だ―

夢はバラ色

中　島　義　明*

Join Us at the Osaka International Conference Hall in Nakanoshima on May 5 and 6!

—Lineup of Our 70th Annivevsary Programs—

Key Words: Osaka University, the 70th annivevsary, commemorative project, commemorative events, Osaka International Convention Hall

1．はじめに

2001年5月1日に創立70周年を迎える大阪大学は，「地域に生き世界に伸びる ― 阪大発21世紀」を統一テーマに記念イベントを行うと同時に記念事業として中之島センターの建設に取り組んでいく．中之島センターは平成の適塾・懐徳堂として地域と共生し，世界に発信する阪大の第三キャンパスで，念願の事業である．記念イベントは大阪市北区中之島に昨春オープンした大阪国際会議場に5月5日，6日両日，国内外から大学関係者，研究者らを招き，国際交流会や懇親会，記念シンポジウムなどを開催する．また，一般市民に公開するイベントも計画している．(表1参照)70周年は新世紀の扉が開いた年であり，イベントを通じて阪大のアイデンティティを再確認し，21世紀も阪大が地域に生き世界に伸びる決意を新たにする行事である．

記念事業を実施するにあたり，岸本忠三総長を委員長とする創立70周年記念事業委員会が設置された．具体的なイベントプログラムは①イベント ②マルチメディアコンテンツ ③シンポジウム ④出版 ⑤施設という5つの実行委員会が担当し，大学をあげて取り組んでいる．21世紀スタートの本年が70周年と重なることから，イベントの統一テーマには阪大の理念，「地域に生き世界に伸びる」に「阪大発21世紀」を冠した．サブタイトルは学生から募集したもので，新世紀に向けての大学の精神・姿勢を表現している．

その背景には，21世紀は大学の使命，役割がより重要になってくるが，大学は何をしてきたか，これから何をしようとしているのか，が一般に十分認識されていない― との考えがあり，その中で「国立大学として阪大が社会のニーズに応えるためにどう

表1　記念イベントタイムスケジュール

		グランキューブ大阪［大阪国際会議場］			その他
		メインホール 5F	特別会議場 12F	イベントホール 3F	
5月5日(祝)	9:00				
	10:00	記念式典			
	11:00	記念講演			
	12:00				
	13:00				記念祝賀会
	14:00			夢ワールド次世代展［公開］	
	15:00	記念シンポジウム［公開］			
	16:00				
	17:00		国際交流イベント		
	18:00				
	19:00				国際交流懇親会
5月6日(日)	9:00				
	10:00				
	11:00		国際交流シンポジウム		
	12:00				
	13:00			夢ワールド次世代展［公開］	国際交流懇親会
	14:00				
	15:00	記念コンサート［公開］			
	16:00				
	17:00				
	18:00				

* Yoshiaki NAKAJIMA
1944年6月24日生
1972年東京大学大学院人文科学研究科博士課程単位取得退学
現在，大阪大学大学院人間科学研究科，教授，文学博士，実験心理学
TEL 06－6879－8030
FAX 06－6879－8033
E-Mail nakajima@hus.osaka-u.ac.jp
大阪大学創立70周年記念事業委員会副委員長

すればよいか，再構築の必要がある」とし，阪大の過去，現在，未来を記念イベントで示し，理解を求めていくこととなった．

具体的には「地域に生き世界に伸びる－阪大発21世紀」の統一テーマをどう実現していくか．そのために5つのコンセプトに整理した．①21世紀の科学と社会 ②21世紀のネットワークづくり ③21世紀のメッセージ ④21世紀への阪大スピリッツの伝承 ⑤21世紀への飛翔－で，これを各実行委員会が役割分担して推進している．(表1参照)．

著名な世界の学者を招いての記念シンポジウムや記念講演，先端的な内容をシリーズでブックレットにする「大阪大学新世紀セミナー」の出版などで，21世紀の科学と社会づくりに貢献し，阪大の海外提携校や留学生との国際交流イベントなどによって，21世紀のネットワークづくりを構築していく．また，ルーツを確認し，「手塚治虫の世界」展などOBや現役の活躍を示す．「夢ワールド次世代展」を通じて若い世代へメッセージを送る．さらに，阪大の源流，適塾・懐徳堂をバーチャルで再現することにより，受け継がれた「精神」「知」の遺産を次世代へとつないでいく．そして，これらのコンセプトを実現する場「平成の適塾・懐徳堂」として，大阪の街と共生する「大阪大学中之島センター」の建設を70周年記念事業の目玉とし，21世紀における飛翔の足場をかためる．

2．記念イベント

2.1 記念シンポジウムや適塾・懐徳堂のシアター

5月5日(土)，6日(日)の2日間のイベント会場に，交通至便な都心の大阪国際会議場(大阪市・中之島)を選んだのは，一般市民も含めた多くの人々に参加してもらい，阪大とのふれあいを持つ機会にしてもらいたい，との願いもある．

記念シンポジウムや適塾・懐徳堂のディジタル・イメージ・シアター，「手塚治虫の世界」展などOB，現役の活躍ぶりを披露する展示コーナー，そして，コンサートなど一般公開のイベントも多い．2700人収容の大ホールで行われる記念式典に続いて実施される記念講演では，ノーベル賞選考委員を長年務める腫瘍生物学分野におけるスウェーデンの国際的な学者，ジョージ・クライン・カロリンスカ研究所教授が講演する．同教授はハンガリーブダペスト出身であり，ナチス占領下のハンガリーにおいて危ういところで死を免れている．1947年にスウェーデンに渡っている．作家としての活動も行なっており，スウェーデンではベストセラー作家としても著名である．日本でも紀伊国屋書店から『神のいない聖都－ある科学者の回想－』(小野克彦 訳，1992)と『ピエタ －死をめぐる随想－』(小野克彦 訳，1994)とが出版されている．「21世紀の科学と社会」をテーマにした記念シンポジウムには，クライン教授のほか米沢富美子 慶応義塾大学理工学部教授(元日本物理学会会長)，坂村 健 東京大学大学院情報学環教授(コンピュータ・サイエンス)，劇作家の平田オリザ 桜美林大学文学部助教授を招き，岸本総長もパネリストとして参加する．司会は猪木武徳 大阪大学大学院経済学研究科教授が行ない，総合司会には鷲田清一 大阪大学大学院文学研究科教授があたる．なお，この記念シンポジウムの模様はリアルタイムでインターネット配信される．アドレスは

http://www.osaka-u.ac.jp/info/sympo.html

である．

国際交流イベントは，阪大と交流協定を締結している外国の大学の学長らを招待し，交流を深めるもので，21世紀のネットワークづくりの一つとして計画された．国際交流のもう一つのプログラムは学生交流である．学内選考で選んだ阪大生の3チームが(1チーム7～10人)アメリカ，アジア・オセアニア，ヨーロッパに約2週間滞在した交流の成果を映像などにしてイベント会場で報告する．

アメリカチームは，楽器演奏がない合唱曲，アカペラを通じて交流，自作した曲を会場で披露する．アジア・オセアニアチームは，エビの養殖を巡って日本との摩擦が問題になったタイの漁業の実状などを取材し，この問題を伏線にしたシナリオで現地学生と協力してビデオ映画を作成し上映する．ヨーロッパチームは，夏期セミナーに参加して，知識詰め込み型でないヨーロッパの教育の実態を体験し，大学教育のあり方を考え，その成果を発表する．

21世紀世代へのメッセージとして企画した，「夢ワールド次世代展」では，イベントのねらいでもある，阪大のルーツ(過去)とOBたちの活躍を紹介し，若い世代へ参加を求めていく．

阪大のルーツとしては，阪大の源流である適塾・懐徳堂を空間に再現するディジタル・イメージ・シアターのほかに写真パネル展で70年の歩みを振り返る．

2.2 「手塚治虫の世界」展や記念コンサートも

OBの活躍を代表するのが「手塚治虫の世界」展．手塚治虫は阪大医学部の前身，大阪帝国大学附属医学専門部の出身．学生の頃は劇団をつくり，脚本を漫画にして周囲を驚かせたというエピソードがある．鉄腕アトムやサイボーグなどの作品は，21世紀の科学・医療を漫画で先取りしたもので，先見性は阪大のコンセプトと合致する．約500平方メートルのスペースに手塚治虫のキャラクターを展示する．

昆虫など生きものにも興味を示した手塚治虫にちなんで大阪府とその周辺の小・中・高生を対象に昆虫精密画コンクールを実施，優秀作品を表彰，展示する．「わたしたちが活躍しています」というタイトルで，OBが取り組んだ研究成果やユニークな製品，国家プロジェクトに貢献した業績などを披露，併せて現役教授等の活躍ぶりも有形，無形併せて公表する．

このほか，6日には関西フィルによる記念コンサート(表2参照)が2時間半にわたりメインホールにおいて開催される．

3．ディジタル・イメージ・シアター

3.1 阪大の源流，適塾・懐徳堂をバーチャル空間に再現，

阪大の源流，適塾・懐徳堂を最新のマルチメディア技術を使ってバーチャル空間に再現，イベント会場に設営した大型スクリーンに映し出す．適塾・懐徳堂の貴重な資料はデータベース化して保存，イベント後は阪大の電子遺産としてサイバーメディアセンターなどで活用，一般にも公開する予定である．

適塾は，幕末の蘭学者で医学者だった緒方洪庵が大坂・瓦町(後に現在の北浜に移転)に開いた学塾であり，福沢諭吉，大村益次郎，橋本左内など日本の近代を切り開いた多くの人物を輩出している．ここで養われた自由な精神や先見性は，大阪大学の支柱として今に受け継がれている．重要文化財の建物は阪大の前身，大阪帝国大学に寄贈され，昭和55年から一般公開されている．

懐徳堂は，適塾より早く，1724年(享保9年)大坂・尼崎町(現在の中央区今橋3)に創設された町人の学問所である．特定の学派・学説にとらわれない自由な学風は，大坂の町人に歓迎され，大坂の文化，学問を高めた．戦災時においても蔵書は難を逃れ，約4万8千点の書籍，資料が大阪大学に寄贈され，図書館に保存されている．

医学部を含む理系は適塾，文系は懐徳堂を源流に求めることができるという．教育者でもあった緒方洪庵が説いた人間としての基本的な考え方は，現代社会にそのまま適用され，精神的なバックボーンにすべきとの論評もある．それ故，適塾と懐徳堂の思想をディジタル・イメージ・シアターで現在によみがえらすことは，阪大スピリットの伝承になり，阪大のマルチメディア情報分野の最先端技術を学内外にアピールする絶好の機会と考えられる．

3.2 データベース化し，電子遺産として活用

「バーチャル適塾」は現存する建物の外観や部屋を写真撮影し，高度画像処理技術を使ってコンピュータ内を取り込む．ここで洪庵が医師を志す若者や塾

表2 記念コンサートプログラム　5月6日(日) 15:00～17:30/国際会議場5Fメインホール

出　演	関西フィルハーモニー 藤岡幸夫(指揮者) 釜洞祐子(ソプラノ)　荒田祐子(メゾソプラノ) 松本薫平(テノール)　井上敏典(バリトン) 大阪大学交響楽団・男声合唱団・混声合唱団・フロイントコール・大阪フィル合唱団有志	
第1部	「創立70周年の祝典」	ワーグナー 「ニュールンベルグのマイスタージンガー」　前奏曲 ガラ・コンサート 「椿姫」「ラ・ボエーム」「トスカ」「メリーウィドー」「魔笛」より
第2部	「21世紀の幕開け」	吉松　隆「21世紀への序曲」 ラ ベ ル「ボレロ」 ベートーヴェン交響曲第9番(合唱つき) 4楽章「歓喜の歌」

※ 事前の申込みが必要です

生に教えを説いたりする場面をバーチャル空間で演出．洪庵の人柄や適塾の精神をリアルに浮かびあがらせる．

「バーチャル懐徳堂」は，建物が現存しないため，残された江戸期の図面を基にコンピュータ・グラフィックスで再現させ，懐徳堂に関する講義をバーチャル空間上で実現．

適塾・懐徳堂は合わせて約20分の映像となる．記念イベントの会場に設営したシアターの大型の高精細スクリーンで公開する．イベントだけで終わらせず，関係する蔵書や塾生情報などの資料はディジタルアーカイブ化してサイバーメディアセンターに移し，充実をはかって学術研究や阪大が行っている一般向けの公開講座などで広く利用していく．

4．記 念 出 版

4.1 先端研究を分かりやすくまとめたブックレット

「大阪大学新世紀セミナー」は，最新の科学，医学，経済学などを分かりやすく紹介，一般にも広く理解を求めると同時に，学生の学部教育の副読本に使う計画もある．実行委員会は「21世紀の社会の要請に応えるにふさわしい内容にし，長く読みつがれるように」と検討を重ねてコンテンツを練り上げた．テーマは，先端的でタイムリーな研究内容を条件に，候補にあがった70テーマから21テーマに絞り込んだ(表３参照)．内容は，ゲノムやコンピュータなど情報通信，金融工学など次世代の産業，医学，経済など各分野で重要課題とされるものばかり，執筆者も世界に冠たる研究者が名を連ねている．読みやすくするため，用語解説や図表，文献なども掲載する．

体裁はブックレット(Ａ５判)形式で，１テーマ，１冊(96ページ)にまとめ，本年２月から月２冊ずつ，大阪大学出版会から発行．各2000部印刷し，定価1000円で一般にも販売する．70周年記念式典の会場にも並べる予定．

4.2 写真と記事で分かる阪大アルバム

記念のアルバムは，70年の歴史と現存の各学部，研究所を紹介する内容．学生の活動など阪大の現状

表３『大阪大学新世紀セミナー』 ―テーマと執筆者―

部局等	テーマ	執筆者
総長	「サイトカイン物語」	岸本忠三
文学研究科	「関西・ことばの動態」	真田信治
	「邪馬台国と大和政権」	福永伸哉
人間科学研究科	「実践としてボランティア研究 ―被災地で過ごした最初の五年―」	渥美公秀
	「学校再生の可能性」	池田 寛
	「ターミナルケアとホスピス」	柏木哲夫
法学研究科	「電子商取引と法」	平田健治
	「変貌する現代の家族と法」	松川正毅
経済学研究科	「NPOの時代」	本間正明，山内直人
	「アジア太平洋経済圏の興隆」	杉原 薫
理学研究科	「生物学が変わる！ ―ポストゲノム時代の原始生物学―」	倉光成紀，増井良治
	「素粒子と原子核を見る」	高杉英一
	「金融工学」	小谷眞一，仁科一彦，長井英生
医学系研究科	「命をつなぐ ―わが国の臓器移植の現況と今後―」	松田 暉
	「循環器疾患の遺伝子治療」	萩原俊男，森下竜一
歯学研究科	「コンピュータネットワーク時代の歯科医学」	前田芳信 他
薬学研究科	「科学物質とうまくつきあうには―化学物質のリスクアセスメント」	西原 力
工学研究科	「究極の物づくり ―原子を操る―」	森 勇蔵，芳井熊安，広瀬喜久治 青野正和，片岡俊彦，森田瑞穂
	「レーザー核融合 ―21世紀エネルギーへの挑戦―」	中井貞雄
	「身近になるロボット」	白井良明，浅田 稔
基礎工学研究科	「インターネットがもたらすマルチメディア社会」	宮原秀夫，村田正幸
	「新しい超伝導を求めて」	天谷喜一，三宅和正，北岡良雄
	「脳の神秘を求めて」	村上富士夫，藤田一郎，倉橋 隆
	「新しい光の科学」	岡田 正，小林哲郎，伊藤 正
言語文化研究科	「コミュニケーションの日米比較」	津田 葵
国際公共政策研究科	「軍縮をどう進めるか」	黒沢 満
微生物病研究所	「話題の感染症 ―いまどこまでわかったか―」	本田武司，生田和良，堀井俊宏
産業科学研究所	「ナノコンポジットの世界」	新原皓一
蛋白質研究所	「タンパク質のかたち，はたらき ―構造生物学最前線―」	月原富武
社会経済研究所	「雇用問題を考える」	大竹文雄
接合科学研究所	「熟練技能の継承と科学技術」	村川英一

を紹介するグラビアほか，60周年の記念アルバムから抜粋した60年史ダイジェスト写真と，吹田キャンパスの大学附属病院や体育館など最近できた新しい施設，そして各部局のこの10年の歩みと今後の展望を写真と記事で紹介する．

140ページで，4000部印刷し，式典参加者のほか在学生の出身高校にも配布予定．大阪大学生協では一般に販売する．

5．大阪大学中之島センター

5.1 「都市の発展に大学は不可欠という時代の要請に応えて」

阪大が大阪市から吹田，豊中の郊外に移転し，6大都市の中で大阪は国立大学の無い街になってしまった．しかし，“大阪の顔”をゆかりの地に残そうと，阪大は20年前の創立50周年の時に中之島に記念施設の計画を立て資金集めも始めたが，バブル崩壊などその後の経済情勢の急変などにより，建設への活動は静観状態になっていた．

ところが，大学に対する社会貢献が最近は特に強く求められ，地盤沈下が止まらない大阪経済界などの「都市の発展に大学の存在は不可欠」というラブコールに応えるためにも，情報発信・受信の拠点を都心に必要とするニーズが以前にも増して高まってきた．

こうした周囲の動きと，中之島に第3のキャンパスを建設することに情熱を燃やす阪大との意向が一致し，創立70周年に合わせ「平成の適塾・懐徳堂」としての中之島センターの建設に向け本格的に動き出した．

5.2 教育・研究，情報発信，社会との交流 ―の3つの機能を果たす

センター建設の基本的な考えは，都心に立地することで地域社会との連携がより密になり，知的情報の交流やさまざまなサービスを提供，社会貢献ができる ― とし，①社会人を対象にした教育・研究機能 ②産学連携と社会への情報発信機能 ③社会との交流機能 ― の3つの機能を果たすことを目的にしている．

①教育・研究機能としては，実践的なビジネススクールやロースクール(先端的法律実務教育)，情報技術(IT)をはじめとする先端的科学技術の講義・研修などを行う高度職業人講座や社会人に大学院教育を行う昼夜開講制大学院を開設する．②社会への情報発信機能では，教育・研究情報や入試情報，同窓会・後援会・育友会などの情報データベースを構築するほか，経済，経営，医療，技術関係のコンサルタント業務を実施．大学の知的成果を民間に移転する事業を行うなど産学連携を推進する．③社会との交流機能は，最先端の情報通信処理技術を活用したヘルスケア・ウェルネス・クラブを設立，一般市民を対象にした文化・学術講演会，シンポジウムの開催，社会人向け教養・文化・科学講座も開設する構想を描いている．

5.3 都心の文化・学術ゾーンの中心に平成の適塾・懐徳堂

建設予定地は，阪大の医学部跡地．広さは1000平方メートル．ここに地下1階，地上8階のセンターを建設予定(図1参照)．

都市再開発が進む大阪・中之島には大阪府が建設し，昨年4月にオープンした大阪国際会議場や大阪市立科学館があるほか，吹田市から移転する国立国際美術館が2003年完成を目指している．このほか大阪市の「大阪市立近代美術館」と「舞台芸術総合センター」の建設も計画されており，このエリアに阪大の中之島センターが誕生すれば，都心に文化・学術ゾーンが形成される．なかでも，大阪の「顔」である大阪大学の第三キャンパスとしての平成の適塾・懐徳堂「大阪大学中之島センター」にかける期待は大きい．

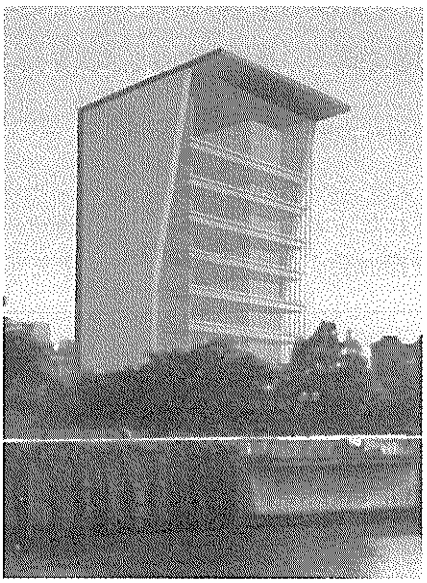

図1 大阪大学中之島センター